

緊急消防援助隊情報

平成22年度緊急消防援助隊ブロック訓練の実施状況（北海道東北ブロック、関東ブロック）

応急対策室

はじめに

先月号に引き続き、今月号では平成22年度緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練のうち、北海道東北ブロック合同訓練及び関東ブロック合同訓練の実施状況を各ブロック担当県等からの寄稿によりお知らせします。

平成22年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練について

福島県生活環境部災害対策課

福島県郡山市を主会場に、福島県中通り中部で直下型地震が発生したとの想定で、平成22年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練を実施しました。

1. 実施日 平成22年11月8日(月)、9日(火)

2. 実施場所

(1) 図上訓練

福島県庁、郡山地方広域消防組合消防本部 ほか

(2) 野営・部隊運用訓練

郡山カルチャーパーク

3. 実施内容

(1) 図上訓練、情報伝達訓練、部隊参集訓練

福島県庁内に福島県災害対策本部及び消防応援活動調整本部を設置し、郡山地方広域消防組合消防本部に設置した指揮支援本部と相互に連携しながら、各種応援要請から部隊配備及び関係機関との調整をロールプレイング方式で実施した。



指揮支援本部設置運用訓練
(郡山地方広域消防組合消防本部)

また、図上訓練を情報伝達訓練と部隊参集訓練とともに実時間で進行させることにより、より実戦的な訓練とした。

《今後の課題》

・部隊参集訓練において、参集部隊に対する進出拠点での情報伝達に混乱が生じたことから、災害時における正確な情報伝達の重要性を再認識するとともに、確実な情報伝達ができるよう訓練を重ねる必要性を感じた。

(2) 野営・夜間訓練

野営訓練については、舗装された駐車場を用いて実施できたことから、おおむね良好な環境により実施できた。

また、夜間訓練については、他道県による先遣隊と福島県内広域応援隊が連携した訓練を実施することで、災害対応力の向上を図った。

《今後の課題》

・夜間訓練に使用した施設が、翌日のヘリによる救出訓練を

行う施設との併用であり、訓練設定の自由度が制限されたことがあったことから、翌日の訓練との重複使用について、今後検討する必要がある。

(3) 部隊運用訓練

今回の訓練では、開催地である郡山市内に化学工場が多く立地することから、特殊（BC）災害救出救護訓練において、大型除染システム搭載車を積極的に活用するなど、地域特性を取り入れた訓練を実施した。



特殊（BC）災害救出救護訓練
(郡山カルチャーパーク)

また、ほぼ全ての訓練

種目において、複数県隊が連携した訓練が行われるなどより実戦的な訓練となった。

航空部隊においては、自衛隊、東京消防庁（消防庁ヘリ）、ブロック内外の航空部隊からヘリ11機が参加した訓練を実施した。

《今後の課題》

・今回の訓練については、時間配分の関係上、ブライント型訓練は3種目に留まったが、広域応援時における指揮・連携活動能力の向上を図るため、今後、より発展的に実施する必要がある。

・DMAT等の関係機関と共同して訓練をする場合、より円滑に活動できるよう現場責任者の明確化や指揮系統の整理が必要である。

4. おわりに

今回の訓練では、図上訓練、夜間・部隊運用訓練など本県では初めて行う訓練も多々あり、貴重な経験となり当県の受援体制の検証に大いに役立つ訓練となりました。

今後は今回の訓練の検証結果を踏まえ、災害対応体制の確立に努めていきたいと考えております。

結びに、訓練の実施に多大なご支援ご協力を賜りました各道県、参加消防本部、各協力機関・団体の皆様に心から感謝申し上げます。



平成22年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練について

東京都総務局総合防災部防災管理課

平成22年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練を、東京都中央区及び稲城市をメイン会場として、次のとおり実施しました。

1. 実施日 平成22年11月20日(土)、21日(日)

2. 実施場所

(1) 消防応援活動調整本部設置・運営訓練

東京消防庁本部庁舎

(2) 部隊運用訓練(メイン会場)

ア 特別区会場 晴海ふ頭周辺

イ 多摩地区会場 株式会社ブループラネット稲城周辺及び多摩川河川敷

※ このほか、サブ会場として東京タワーほか5か所で部隊運用訓練を実施した。

(3) 野営訓練

東京臨海広域防災公園ほか5か所

3. 実施内容

実戦的な訓練とするため、ブラインド型訓練として実施するとともに、被災地が複数あることを想定した複数会場での分散並行型訓練として実施した。また、緊急消防援助隊の活動に即した部隊配備・部隊移動訓練を実施し、発災から夜間を通して、ローテーションによる24時間の救出活動訓練を実施した。

(1) 消防応援活動調整本部設置・運営訓練

図上訓練と実動訓練の双方ともにブラインド型という、実災害に近い状態で実施するとともに、訓練の評価者として各県等から参加していただき、消防応援活動調整本部設置・運営訓練を実施した。



道路陥没事故救出訓練

(多摩地区会場 ブループラネット稲城)

《今後の課題等》

今回の訓練を通し、様々な情報が錯綜する中で、消防応援活動調整本部で、適切に情報を仕分け、緊急消防援助隊や指揮支援本部等に正確な情報を提供しなければ、災害現場の指揮本部においても、部隊配備等への混乱を来すことを感じられた。

今回の訓練の経験や、各県等の評価者の方々からいただいた貴重なご意見を検証し、消防応援活動調整本部と緊急消防援助隊等との連絡体制のあり方等について検討していきたい。

(2) 参集訓練及び部隊配備・部隊移動訓練

上記(1)で述べたように、図上訓練と実動訓練の双方ともにブラインド型訓練であったため、各県緊急消防援助隊もどの訓練会場に配備されるのかわからないという状況で、参集訓練、部隊配備・部隊移動訓練を実施した。

《今後の課題等》

各県緊急消防援助隊は、配備先を進出拠点到着時やサブ会場での訓練終了時に知らされたが、各県隊長の指揮のもと、

道路選定等を適切に行い、おおむね順調に配備先へ移動できたと思われる。

しかし、今回、交通渋滞等の影響で部隊運用訓練に一部参加できなかった部隊も発生したことから、部隊配備・部隊移動訓練について、どのような形で実施すればよいかは今後の検討課題だと感じた。

(3) 部隊運用訓練

部隊運用訓練については、先着し活動している部隊数等を考慮し、どの緊急消防援助隊を効果的に災害現場に割り当てるかを指揮本部が判断し、緊急消防援助隊に下命するという方法で実施するとともに、ローテーションによる救出訓練を24時間行った。



建物倒壊事故救出訓練

(特別区会場 晴海ふ頭)

《今後の課題等》

各県緊急消防援助隊は、長時間の訓練となったが、指揮本部を中心に、人命検索の重点箇所及び危険要因等の情報の共有を図るため、各都県隊長同士が申し送り等を適切に実施し、要救助者の救出活動ができたと思われる。

深夜訓練は、特別高度救助隊、高度救助隊、各県指揮隊に限定し実施したが、今後、深夜訓練を実施する場合は、参加部隊の選定についても検討していく必要があると思われる。

(4) 野営訓練

野営訓練では、これまで同様、公園等の敷地での野営訓練のほかに、清掃工場など既存の建物を使用した宿営訓練を取り入れ実施した。

《今後の課題等》

消防隊員の疲労等を考慮したとき、堅牢で使用できる既存建物は、積極的に活用することが大切であると感じられた。緊急消防援助隊の活動は長時間となるため、隊員の疲労軽減の対策の一環として、清掃工場などの建物利用による宿営は、十分に効果があると思われる。

4. おわりに

今回の訓練では、ブラインド型訓練、分散並行型訓練、24時間にわたる長時間訓練を取り入れ実施しましたが、各県隊の実戦を意識した規律ある行動、ご協力のおかげをもちまして、無事訓練を終了することができました。

本訓練を通し、今後も、本ブロック訓練に限らず、同様の訓練を反復して実施し、各都県隊が大規模地震等に対する消防活動について、相互に共通認識をもち、災害に備えていくことが大切であると感じているところです。

今後、緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練を実施するにあたり、各県も様々な問題をクリアしながら訓練を実施していくことと思われませんが、実際に訓練に参加する部隊、事務局側がそれぞれの意見を集約・検討し、幹事となる県等に申し送ることで、より良い訓練にしていきたいと思います。